

おける患者の生死に関する予後調査の負担を軽減するために、集中的に生死の確認調査を実施する可能性についても検討しているが、これは簡単に実施できるものではなく、長期戦を覚悟で議論を進めている。今後、開発した共通院内がん登録システムの妥当性を検証する目的で、いくつかのがん拠点病院に本システムを導入して実地試験を実施する予定である。さらに、開発した基本システムに、主要臓器別がんの詳細情報を登録・管理するための「拡張システム」を開発している。拡張システムは肺、胃、大腸、肝、乳房の5臓器について設計・開発を行っている。全国がん患者データベースの設計開発、運用方法に関しては今後の検討課題である。このデータベースは、分析システムも含んでインターネット上で公開して、利用者が様々な角度からデータを分析できるようにしたいと考えている。その際には個々の施設の情報が公にされないようにセキュリティーに万全を期すことは当然である。また、各がん拠点病院では全国値と自施設の成績を比較できるような分析システムを用意する予定であるが、こちらもセキュリティーに配慮して施設の担当者のみが比較を行えるような仕組みを備える予定である。

本システムは単なる研究としてのみでなく、成果物は是非、全国のがん診療施設で活用してほしいと考えている。この研究が我が国のがん診療成績の向上に少しでもお役に立てれば班員一同、望外の幸せである。

## 佐賀県がん登録より

田中 恵太郎  
佐賀医科大学社会医学講座

佐賀県がん登録は、元々は1973年から佐賀県保健環境部が佐賀県医師会に委託して実施していた「悪性新生物実態調査」が前身であり、国立佐賀病院の江頭太郎医師が中心となって実施されていました。当初、登録室は県保健環境部内に設置されていました。この体制は、1980年に疫学を専門とする徳留信寛先生（現：名古屋市立大学公衆衛生学教授）が佐賀医科大学に赴任されたのを期に、1981年からは実質的な登録作業を同大学地域保健科学講座において実施する事になりました。徳留先生は、がん登録の精度向上を目指し、佐賀医大の学生を動員して主要公立病院にて出張採録を実施されました。また徳留先生のご指導のもとに前田綾子氏が登録の実務を担当する事になりました。前田氏は、その後何回か所属が変わる事になりますが、現在まで継続してがん登録の実務の中心的な役割を果たしてきており、この事が佐賀県が

ん登録の維持に大きな役割を果たしています。

1983年に老人保健法が施行されたのを受けて、1984年からは「佐賀県がん登録事業」として位置付けられる事になりました。佐賀県のがん死亡率は全国の中でも常にワースト上位にあり、特に肝がんの死亡率が高く、当時がん登録事業の重要性が認識されたものと思います。1985年からは補充票照会が開始されました。1992年、がん登録事業に尽力されてきた徳留先生は佐賀を離れられたため、登録事業は一時作業が遅滞する事態となりました。その後、森 満先生（現：札幌医科大学公衆衛生学教授）が佐賀医科大学に赴任され、1994年よりがん登録を担当される事になりました。また一台のパソコンで照合・入力・集計・解析・報告書の作成に至るまでの処理をこなすシステムを導入し、作業が軌道に乗り始めました。なお、佐賀県は壮年期のがん死亡減少を目指した「がん死半減プロジェクト」を重点事業として位置付け、1994年6月にこのプロジェクトの推進本部を設置しており、これもある程度追い風になったのではないかと思います。森先生は1999年に札幌医大に転任され、その後2001年度から私が登録事業と関わる事になり、現在に至っています。

現在、がん登録事業の実施主体は佐賀県ですが、事業の運営は佐賀県総合保健協会に委託されており、さらに再委託を受けて佐賀県医師会が届出票の収集・謝金の支払いなどを担当し、佐賀医大社会医学講座（旧：地域保健科学講座）がデータ入力・解析・採録・補充票照会・資料保管等の全般的な登録作業を担当しています。登録室は同講座内にあり、総合保健協会から前田綾子氏と片淵祐子氏の二人が出向して、がん登録の実務全般を担当しております。これに、社会医学講座の私と原めぐみが登録業務のサポートとデータ解析などを担当しております。出張採録は人的・予算的制約もあり、現在ごく一部の病院でのみ行い、自主届出と補充票に頼っているのが実状です。ちなみに1998年のDCO率は10.4%、DCN率は31.9%、I/D比は1.47でした。DCO率は補充票照会により比較的高い水準に保たれていますが、DCN率とI/D比に示される通り登録の量的側面を今後どの様に改善するかが重要な課題です。生存率については、佐賀県の全死亡票との照合により計測しております。佐賀県がん登録のデータは「五大陸におけるがん罹患率」のVI巻・VII巻に掲載されましたが、次のVIII巻にも掲載の予定であり、今後も継続掲載される様に努力したいと考えております。

登録データの活用面については、私が関与する様になってからは、「地域がん登録」研究班での協同調査以外に

まだ十分に活用されていない状況です。最近二年間は主に生存率に関する検討（病院の種別・規模別の検討、生存率計測の精度に関する検討）を行いました。過去には、がん登録との記録照合により、肝疾患検診で発見されたC型肝炎ウイルス感染者の追跡、県が行った生活習慣調査集団の追跡などを行い、論文になった例があります。行政的に得られる有益なデータは多々ありますが、個人情報保護の流れの中で如何に有効に活用していくかが私の課題の一つです。人口88万人という小さな県で、住民の移動も少なく、何か良い仕事ができないか、と思いを巡らすこの頃です。

## 第11回総会研究会を終えて

岸本 拓治

鳥取大学医学部 社会医学講座 環境予防医学分野

地域がん登録全国協議会第11回総会研究会は、2002年9月13日に鳥取県米子市「米子コンベンションセンター」において開催され、12日の実務者研修会と併せて、予想以上に多くの参加者があり盛会のうちに終える事ができました。皆様方のご支援、ご援助に対し厚く御礼申し上げます。

本総会研究会では、「保健予防活動と地域がん登録」を主題として開催いたしました。ここ数年の間、個人情報保護の観点から、地域がん登録に関しては大変厳しい状況が続きましたが、現在継続討議になっております「個人情報保護法案」、あるいは「疫学研究における倫理指針」、「健康増進法」などにより、地域がん登録制度の重要性が認識されてきていると思われまます。しかし、法的裏づけや精度向上に関する事、還元方法・活用方法などにつきましてまだまだ多くの課題があり、そのような中で地域がん登録ががん予防に関して非常に重要かつ有効なものであることを改めて問い直し確認するということが、本主題を選んだ理由です。

教育講演では、「最近の大腸がん増加とその背景」という演題で富永祐民先生に講演を頂きました。先生ご自身の健康生活実践例も含めて、大腸がん増加の背景因子に関して報告していただきました。もう一つの教育講演として波平恵美子先生に「癌告知：死と医療の文化人類学」に関して講演していただき、この問題については専門職だけでなく、全ての患者と患者予備軍である一般の人々によって活発に論じられる必要性が強調されました。また、特別講演では「現場で役立つ禁煙指導」について中村正和先生に報告していただき、健診や外来診療の場で

の禁煙指導に関する行動科学的介入について解説していただきました。

シンポジウム「保健予防活動と地域がん登録」では、がんの1次予防に関して「がん登録データが示すがん1次予防の課題」（大島 明先生）、ハイリスク者に対する化学予防に関連した「HCV 検診とIFN 治療」（周防武昭先生）、また、2次予防に関して「わが国のがん検診の現状と問題点」（祖父江友孝先生）と「肺がん検診と治療への展望」（清水英治先生）について、そして、3次予防に関連して「がん登録と生存率—がん医療の進歩と生存率向上—」（津熊秀明先生）について発表されました。さらに、「地域がん登録はがん予防につながるか」（岡本直幸先生）という観点から報告されました。1次予防から3次予防にわたり総合的な討議が行われ、地域がん登録の成果と課題について明らかにされました。

実務者研修会を含めた今回の総会研究会が、今後の実りある地域がん登録の活動に役立つことを祈念して、総会研究会のご報告とさせていただきます。

## 第12回総会研究会のご案内

藤田 学

福井社会保険病院

地域がん登録全国協議会の第12回総会研究会ならびに実務者研修会を下記のとおり開催させていただきます。

日時) 平成15年9月12日 総会研究会

平成15年9月11日 実務者研修会

場所) 福井県国際交流会館 福井市宝永3-1-1

現在プログラムなど具体的なことはまだ決まっていませんが、内容といたしましては次のようなことを考えております。

- 1) 実務者研修会；各医療機関における病歴室や院内がん登録の整備と地域がん登録の関係
- 2) 総会研究会；地域がん登録の利用について
  - ① 臨床、疫学研究からみたがん登録の利用
  - ② 保健予防活動におけるがん登録の利用

福井県のがん登録の特色としては、臨床医が日常行っているがん医療の効果をみたいという目的のもとに始まったということです。最初は胃がんの罹患状況を把握したいとのことで1984年に県医師会の主導で悪性新生物実態調査が実施され、翌1985年から福井県がん登録事業に発展しました。したがって現在でも福井県のがん登録事業は県医師会を中心とした臨床医が中心となって運営されています。福井県のがん診療のレベルを上げるため